

【研究に関する情報】

研究課題名	超早産児における NAVA 導入時および NAVA を中断し HF0 に再移行する際の臨床指標の検討ならびに呼吸予後に関する臨床研究
研究責任者	<所属(診療科等)> 新生児科 <職名・氏名> 医監・杉本美紀
研究期間	2025 年 9 月 1 日 ～ 2030 年 8 月 31 日
研究の目的	超早産児の呼吸管理は、NICU における主要な課題の一つである。 Neurally Adjusted Ventilatory Assist (NAVA) は、横隔膜の電気活動 (Edi) を基に換気補助を行う換気モードであり、人工呼吸器と小さく不規則な早産児の自発呼吸との同調性を高めることで肺損傷の軽減が期待されている。実際、NAVA 使用により短期的な呼吸予後の改善が報告されている。当院では急性期を過ぎた超早産児に積極的に NAVA を導入しているが、一部に NAVA の継続が困難となり HF0 に戻さざるをえない経過をたどる児が存在する。しかし、NAVA の導入や中止に関する明確な基準は確立されておらず、その運用は医師の裁量に依存しているのが現状である。特に、従来の呼吸管理法から NAVA へ切り替える時期、あるいは NAVA から HF0 へ戻すタイミングについての臨床的な指針（修正週数や BPD 重症度等）は十分に検討されていない。本研究では、当院 NICU における超早産児への NAVA 使用実態を後方視的に解析し、導入および中止の判断に寄与する臨床的指標を明らかにすることを目的とする。これにより、NAVA の適切な使用法を確立し、超早産児の呼吸管理および呼吸予後の改善に貢献することを目指す。
研究の方法	<対象となる患者さん> 当院で出生した 2025 年 8 月から 2027 年 12 月の間に当院で出生した在胎 28 週未満で、入院中に NAVA による人工呼吸管理を受けた児とする。重度の先天異常や染色体異常がある児や生後早期に死亡した児は除外する。 <利用の範囲> NAVA 導入前 24 時間以内のデータ（人工呼吸器モード、PIP、MAP、FiO₂、血液ガス等）、NAVA 中のデータ (NAVA level, Edi peak/min, PIP, FiO₂, back up(%)等)、再度 HF0 に変更したタイミングのデータ（MAP、FiO₂ 等）、呼吸予後のデータ（抜管日齢、BPD の有無、在宅酸素導入率等）と患者背景をもとに解析を行う。

問い合わせ先	この研究への参加は任意です。あなたの自由な意思が尊重されます。 上記の研究に情報を利用することをご了解いただけない場合は、下記へご連絡ください。 なお、研究不参加を申し出られた場合でも、なんら不利益を受けることはありません。ただし、申し出をいただいたとき、すでに研究成果が論文などで公表されていた場合や、情報が特定の個人を識別することができないように個人情報加工され、復元ができない場合には、引き続き使わせていただくことがあります。 〈研究責任者〉 長野県立こども病院 新生児科 医監 杉本 美紀 〒399-8288 長野県安曇野市豊科 3100 電話：0263-73-6700(代) 臨床研究支援室 ファックス：(0263) 73-5432
----------------------	---